

○ 1年赤組 生活「おいでよ あきのテーマパーク」

【めあて】じぶんのしごとをくふうして きのみーランドをせいこうさせよう。



授業の初めに、きのみーランドでの自分の役割の確認をしました。自分たちも幼稚園の子たちも良かったと思えるものにするために、与えられた役割を行うだけでなく、自分で考えたことを実行するという学習課題を確認し、本時のめあてを選択し、それぞれ設定させました。各々のめあてに近付くための工夫を考えた後、実際に1年生役と幼稚園児役とに分かれシミュレーションを行い、本番に向けての準備を進めました。

①



②



【選択内容】

- 【自分の仕事についてのめあて】
- ・幼稚園の子に分かりやすく伝えたいな。
- ・小学校が楽しみになってほしいな。
- ・来て良かったと思ってほしいな。

「幼稚園の子に分かりやすく伝えたいな。」というめあてを選択した子どもは、「大きな声ではっきりと言う。」と決め、練習する姿が見られました。

授業の終末には、他ブースで同時に活動が行われるために声が通りにくかったということ踏まえ、「もっと大きな声で言いたい。」と改善案を考えることができました。また、「自分も一緒にやりながら説明をしたい。」と、実際の動きを想像しながら活動を振り返ることができました。

「小学校が楽しみになってほしいな。」というめあてを選択した子どもは、楽しみになってもらうためには、自分自身が楽しい気持ちで教えてあげることが良いと考えました。

さらに、自分の仕事はうまくできたと振り返った上で、もっと良くするために、「にこにこ楽しくやりたい。」と考えることができました。他にも、「困っている子を見付けて助けてたい。」や、「優しい言葉を使いたい。」など、幼稚園児の子に寄り添った意見をいくつも出すことができました。

○ 1年青組 生活「あきとなかよし」

【めあて】 けんだまあそびをしんかさせよう。



授業の初めに、「松ぼっくりがうまく入らない。」「松ぼっくりがいろいろな方向にいってしまう。」といった前時の授業の振り返りを紹介しました。そして、前時の授業を踏まえ、けん玉遊びをより楽しく行えるようにするにはどうしたらよいかを考えるという学習課題と工夫ができそうなポイントを確認した上で、本時のめあてを設定しました。その後、自分で材料の種類や糸の長さなどを選択し、学習を進めていきました。

①



②



【選択内容】

- 【道具】 紙コップ、プラコップ
たこ糸、毛糸、松ぼっくり
- 【工夫】 穴を増やす・糸を長くする
木の実の大きさを変える
コップの大きさを変える

コップの大きさを変えることを選択した子どもは、松ぼっくりと紙コップの大きさを比べ、どの組み合わせが入りやすいか確かめていました。友達に「紙コップを大きくしたら入った。」「小さいと難しいよ。」と自分が試した結果を伝え合う姿が見られました。

授業の終末には、「コップを大きくすると入りやすくなることが分かりました。今度は、初心者でもできるようにさらに紙コップを大きくしたい。」と活動を振り返る子どもが見られました。

けん玉の穴を増やすことを選択した子どもは、紙コップを横並びや花束のような形など、どの増やし方が入りやすいか試行錯誤を繰り返していました。友達に「紙コップを増やしたら入った。」「近くに集めたら入りやすいよ。」など見つけた穴の増やし方を伝え合う姿が見られました。

授業の終末には、「紙コップを増やしたら前よりすごく入りやすくなった。たくさん付けると簡単になることが分かった。」と振り返る子どもが見られました。

○ 2年白組 生活「わたしの町はっけん」

【めあて】グループの友達と発表の方法を選んで決めよう。



授業の初めに、前時までに町探検で集めた情報や写真を同じグループの友達同士で見せ合い、学びを深めてきたことを振り返りました。見付けたことを町のすてき発見として発表するために、「グループの友達と発表の方法を選んで決める。」という本時のめあてを設定しました。どんな発表方法が考えられるのかを発表し合い、出された意見の中から、個人で発表方法を選択し、その後グループで発表方法を選ぶという流れで学習を進めました。

①



【選択内容】話し合いで出された方法「紙芝居、劇、クイズ、新聞、タブレットで写真と言葉を使って発表する」の中から選択

- ① 個人で発表方法を選択
- ② その後、グループとしての発表方法を選択

②



授業の導入部分の話し合いで出された発表方法「紙芝居、劇、クイズ、新聞、タブレットで写真と言葉を使って発表する」の中から、まずは、個人で発表方法を選択しました。選択する際には、1つだけでなく、より多くの情報を伝えるために複数の発表方法を選んでよいこと、質問してきた内容を分かりやすく伝えるためにはどの発表方法を選ぶとよいかといった観点で選ぶように助言し、子どもは、伝えたい内容に合わせて発表方法を選択していました。

個人で発表方法を選択した後のグループでの話し合いでは、友達の意見を聞いて発表方法を選択していこうとしたり、発表をどのような順で行っていくとより分かりやすくなるかを考えたりして、活発に話し合うことができていました。

授業の終末には、「最初は友達と意見が違ってなかなか決められなかったけど、友達の意見のよいところを探して、みんなで決めることができました。」と振り返りをする子どもが見られました。

○ 3年赤組 国語「登場人物の気持ちをそうぞうしながら読もう」

【めあて】自分の計画にそって学習を進め、「おすすめ図書カード」のかんせいを目指そう。



授業の初めに、「お話を読んで心に残った場面について、お薦めしたい場面になるか考えたい。」といった前時の授業の振り返りを数人分紹介しました。次に、前時までの進捗状況と図書カード完成までの残り時間数を踏まえ、本時の授業でどの方法を選ぶのか見通しを持たせました。その後、本時のめあてを設定し、自分で本時の学習方法や内容を選択し、学習を進めていきました。

①



②



【選択内容】

- 【方法】一人で・友達と
- 【書く】ノート・プリント
デジタルプリント
ロイロノートのカード

一人で学習することを選択した子は、お薦めしたい本としてその本を選んだ理由を書き、その理由が相手に伝わるように工夫しながら文章を書いていました。

授業の終末には、「その本を選んだ理由がたくさん書けた。次は、この理由が伝わるように文章を書いていきたい。」といった振り返りをする子どもが見られました。

友達と学習することを選択した子は、互いの文章を読み合ったり、アドバイスしたりすることで、より相手に伝わりやすい内容や表現に修正していました。

授業の終末には、「一人で考えても、本を選んだ理由がはっきりしなかったけれど、友達と話し合うことで、その本を選ぶ理由がはっきりした。次も、友達と話し合って考えたい。」といった振り返りをする子どもが見られました。

○ 3年白組 理科「ものの重さ」

【めあて】ものの重さはへんしんさせることによって、かわるのか実験しよう。



授業の初めに、「粘土は伸ばすと細くなるけど長さは長くなるから、重さがどうなるか気になるので実験したい。」という前時の授業で計画した内容を、予想とともに数人分紹介しました。「なぜその実験をしたいのか」という理由を明確にして実験することの大切さを確認し、本時のめあてを設定しました。その後、自分で本時の実験内容を選択し、学習を進めていきました。

①



②



【選択内容】

○【実験するもの】

粘土・アルミホイル・ブロック・色画用紙・アルミ缶・はさみ・ダンボール

○【変身方法】

分ける、丸める、伸ばす、置く場所を変える、置く向きを変える、折る

実験するもので「アルミホイル」を選んだ子どもは、丸める・分ける・折るのように様々な形に変身させて実験をしていました。何回か折ることで、「中に空気が入ったと思うけど、重さはどうなるだろう。」と疑問をもちながら実験している子どももいました。

授業の終末には、「重さは空気が関係すると思ったけれど、空気をふくむような空洞をつくってみても、変身前と変身後では重さは変わらなかった。」というように、予想と比較して振り返る子どもが見られました。

変身方法で「置く場所を変える」ことを選んだ子どもは、はさみやボンドなどのキャップを付けた状態から外した状態にすると、重さはどうなるか実験を行っていました。「筆箱の中身のキャップを全て変えたらどうなるのだろう。」と変身させる量を変えて挑戦する子どももいました。

授業の終末には、「結果が32gと33gと変わり、正確に計れなかった。次はカップを置いた後にリセットボタンを押して計りたい。」と自分の実験方法を振り返る子どもが見られました。

○ 4年白組 算数「小数のかけ算やわり算」

【めあて】 $2 \div 4$ の計算の仕方を考えよう。



「小数のわり算でも、10倍して整数にすれば、計算することができる。」「この方法はいつでも使えそう。」といった、前時の授業の振り返りを、授業の初めに数人分紹介しました。その後、本時の問題を提示し、「10倍して、われる数にする」という前時の考え方が生かせそうであるということを確認した上で本時のめあてを設定しました。その後、本時の学習方法や取り組む課題の難易度を選択し、学習を進めていきました。

①



②



【選択内容】

- 一人で・友達と
- レベル別プリントに書き込む
ノートに書く、ヒントを使って書く

一人で学習することを選択した子どもは、前時のプリントを参考にしながら、計算の仕方の説明を考えたことで、数字が変わっても考え方は変わらないことに気付いていました。

授業の終末には、「一人でやって、ノートやプリントをじっくり見返したことで、今までのやり方を使ったら説明できると分かった。」「次はもっとレベルを上げたい。分からないときや自信がないときは、友達に聞いて教えてもらうようにする。」といった振り返りをする子どもが見られました。

友達と学習することを選択した子どもは、計算の仕方を考える中で、説明の言葉を一緒に考えたり、書き上げた説明を読み合って確認したりすることで、計算の仕方の説明文を完成させていきました。

授業の終末には、「言い方は少し違ったけど、友達も同じことを言っていた。友達の説明の仕方の方が分かりやすかったから真似したい。」「友達に教えることができ、説明に自信がもてた。」といった振り返りをする子どもが見られました。

○ 5年赤組 国語「表現の効果を考えながら、登場人物の関わりをとらえて読もう」

【めあて】「雪わたり」の表現の工夫に注目して、表現の効果を考えよう。



授業の初めに、前時の振り返りで、子どもたちと共有していた到達目標を基に自己評価した「メタメーター」の点数を確認することで、自分の学び方の改善点や本時の目標を意識できるようにしました。次に、自分の点数が低かった部分を改善するためには、苦手な活動の前後で友達と話し合うようにするというを確認した上で、見通しをもって学習を進めていきました。

①



②



【選択内容】

- 【学習内容】 リズムのある表現
たとえを使った情景描写
- 【学習方法】
シンキングツールのまとめ方
順序立て・理由付け・比較

「雪わたり」の中の、リズムのある表現に注目した子どもは、本文からリズムのある表現を抜き出し、リズムの良い言葉を多用することで、作品にどのような効果をもたらしているかを考えました。その理由を「くらげチャート」というシンキングツールを使って説明している子どもが多く見られました。振り返りでは、「耳に残って思い出しやすいし、リズムが心地よいと主人公の楽しさが伝わってくる。」と記述する子どもがいました。

たとえを使った情景描写に注目した子どもは、本文からたとえを使った情景描写を抜き出し、その叙述を他の表現に置き換えた場合、どのように印象が違うかを考えました。その印象の違いを「バタフライチャート」というシンキングツールを使って比較している子どもが多く見られました。振り返りでは、「普通では使わない表現が多いけど、身近なものにたとえることで登場人物の気持ちが読者に伝わりやすいのではないかな。」と記述する子どもがいました。

○ 5年赤組 食育「食生活の目標を立てよう」

【めあて】自分の食生活の課題を見付け、より良くするための目標を立てよう。



初めに、「朝ごはん」と「食事マナー」についてチェックシートをもとに自分の食生活を振り返り、課題を見付けさせました。そして、人によって課題が異なることに気付かせた上で、本時のめあてを設定しました。次に、「効果の大きさ」や「取り組みやすさ」等、目標を立てる際のポイントを確認しました。その後、「朝ごはん」または「食事マナー」のテーマについて、自分の課題だと思う方を選択し、学習を進めていきました。

①



【選択内容】

- 【テーマ】 朝ごはん・食事マナー
- 【まとめ方】
紙のプリント・デジタルプリント・白紙と付せん
・ロイロノート上のシンキングツール

②



自分の食生活の課題を「朝ごはん」と選択した子どもは、五大栄養素の表をもとに、普段の朝ごはんの栄養バランスを確認しました。その後、紙と付せんを使い、バランスの良い朝ごはんを食べるための方法について、「取り組みやすさ」等のポイントをもとにまとめ、目標を立てました。

振り返りでは、「朝は時間が無いので、前日に果物を買っておくという目標を決めました。今日、家でも話をして、明日から取り組みたいです。」と記述する子どもが見られました。

「食事マナー」に課題があると選択した子どもは、普段の食事の様子を振り返りました。そして、シンキングツールを使い、マナー良く食事する方法について、理想と現実といった視点をもとにまとめ、目標を立てました。

振り返りでは、「食事マナーの課題を、シンキングツールを使ってまとめたら、自分のできていないことがたくさんあると分かってびっくりしました。だけど、すぐに直せることだと思ったので、これから意識していきたいです。」と記述する子どもが見られました。

○ 6年白組 国語「伝記を読んで、人物の生き方について自分の考えをまとめよう」

【めあて】自分の生き方と比べながら、伊能忠敬の生き方について人物ポスターにまとめよう。



前時の振り返りで、その時間にできたことと次の学習で頑張りたいことが具体的に書けているものを、授業の初めに3人分紹介しました。また、作っている途中の人物ポスターも提示し、課題を設定して取り組むことの大切さを確認しました。その後、タブレットを使って他の子どもの人物ポスターを見て様々なまとめ方を知る場面を設け、本時でどのような人物ポスターを作っていくか見通しをもたせました。それをふまえて子どもたちは本時のめあてを設定し、本時の学習方法やまとめ方などを選択し、学習を進めていきました。

①



【選択内容】

- 【方法】一人で・友達と
- 【まとめ方】年表・キャッチコピー
・写真やイラストなど
- 【手段】タブレット・画用紙

②



一人で学習することを選択した子は、これまでの学習で作ったカードを使ったり、教科書を読んだりしながら、伊能忠敬の生き方を人物ポスターにまとめていきました。

授業の終末には、「伊能忠敬の行動と自分の考えを書き加えることができた。次は、自分の今後の生き方を絵・図を使ってまとめられるようにしたい。」といった振り返りをする子どもが見られました。

友達と学習することを選択した子は、同じまとめ方をしていた子を見付け、互いに教え合ったり、作成途中のポスターを見てアドバイスし合ったりすることで、伊能忠敬と自分の生き方が伝わる人物ポスターをまとめていきました。

授業の終末には、「友達と教え合って年表を作ることができた。次は、自分と伊能忠敬の生き方の共通点や相違点の続きを書いていきたい。」といった振り返りをする子どもが見られました。

○ そら組 国語「学校のことをつたえあおう」

【めあて】聞き方のポイントを意識しながら、インタビューする相手の話をしっかり聞こう。



授業の初めに、これまでの活動の動画や写真を見たり、学習プリントを読み返したりして前時までの活動を振り返りました。また、今まで学んだ聞き方のポイントを確認した上で、本時のめあてを設定しました。次に、学習プリントに本時のめあてや自分で選択した重点ポイント、課題解決方法を記入することで、進んで取り組めるようにしました。個別に支援が必要な子どもには、記入する場所を知らせたり、必要な教具を提示したりして、安心して取り組めるよう支援しました。

①



②



【選択内容】

- 【課題解決】 一人で・先生と
- 【学習方法】 個別の学習プリント
動画や写真・音声

個別の学習プリントを選択した子どもは、あらかじめ自分で考えた質問内容を記入したプリントを見ながら、インタビューを進めていきました。質問に対する答えも自分で学習プリントに記入し、そのプリントを基にまとめることができました。

授業の終末には、「緊張したけどプリントがあったからインタビューできた。」「ずっとプリントを見て質問したから声が小さかった。今度はちゃんと顔を見る。」といった振り返りをする子どもが見られました。

タブレットで動画や写真・音声を使うことを選択した子どもは、質問したいことを動画や音声で補いながら、自信をもってインタビューを進めていきました。質問に対する答えは、自分で動画を撮影したり、教師の支援を受けながら聞き取ったりすることができました。聞き取った内容を自分なりの方法でまとめるために、何度も動画を見返す姿が見られました。

授業の終末には、「早口だった。」「家族にも聞いてみたい。」と振り返りをする子どもが見られました。

○ にじ組 国語「町のすてきを伝え隊」

【めあて】わかりやすい はっぴょうに するための ポイントを みつけよう。



授業の初めに、「僕は文字やイラストで勉強するほうが分かりやすい。」といった前時の振り返りを紹介しました。次に、教師による二つの示範動画を比較させ、分かりやすい発表にするためには、何か大切なポイントがあることを意識させた上で、本時のめあてを提示しました。その後、本時の学習内容と学習方法についての説明を行いました。子どもは本時の学習方法を自己選択し、学習を進めていきました。

①



②



【学習方法の選択内容】

- 一人で・友達と
- 文字を読む・動画を見る・音声を聞く
- 自分の発表を聞いてもらう方法・自分の発表を動画撮影し、振り返る方法

教師の動画を見て学習することを選択した子どもは、動画を比較しながら「大きい声だとびっくりするからだめだよ。」や「速い声だと聞こえないからだめだよ。」と発言し、発表のポイント（声の大きさ・速さ・顔の向き等）に気付く姿が見られました。

授業の終末には「動画は分かりやすい。」「次の勉強も動画でやってみたい。」といった振り返りをする子どもが見られました。

冊子を読んで学習することを選択した子どもは、早々に発表のポイントを理解し、困っている友達にアドバイスをしていました。発表練習を行う場面では、自分の発表する動画を何度も見て、ポイントを押さえた発表になっているかを確認する姿が見られました。

授業の終末には「自分は本を使ってやる方がいい。」「次はもっとはきはきしゃべりたい。」といった振り返りをする子どもが見られました。